

0、今後の予定

それでは、第2回 日本で楽しくムスリム育児講座&座談会をはじめます。

- ・まずは前回までのおさらいです。(省略)
- ・第2回は「こんな親の会があります」ということで、ムスリムの親どうしのつながりのお話をしていきます。第3回は教材についての紹介や使い方の提案と、リーフレットを作るとしたら、ということでも少し対外的なお話をする予定です。

1、講座

- ・子育てトピック5

- ①行動が子どもの言葉
「分かった？」を連発していませんか？/
「分かる」と「できる」は違う
- ②誤学習の実例
- ③叱る以外のいろいろな方法
- ④子どもの多動とAD/HDのこと
- ⑤保護者と教師-保護者にしかできないこと

・メインテーマ「こんな親の会があります」

親の会について、公開講座で少しだけお話しさせていただきました。そしていろいろな感想をいただきました。ご感想をいただけたから気が付いたことなのですが、私の説明がかなり足りなかつたなあと反省したところがありました。公開講座のお話で私は、親の会の、対外的な活動、学校に対して呼びかけていくとかですね、そういうことを強調するようにお話してしまったのですが、もともと親の会って、そういう活動だけではないんですね。それはむしろ最終段階の一つであって、最初は親どうしがつながる、ということが肝心なんだと思います。親どうしがつながることで、一家庭だけで子育てをやっているのとはできない、情報交換とか、相談しあいなどができたり、たまには愚痴をこぼしたり、そういう仲間がいるということ、何より安心感がありますよね。そしてだんだん、自分たちで自分たちの直面している問題を学んでい

ったり考えていこうということ、学習会をしたりとか、それがだんだん発展していった講演会を開いてみたり、そうする中で、对学校とか、対地域とか、対行政とか、対外活動につながっていくこともあるかも知れない。だけど基本的なところは、親どうしがつながろうということなんです。

自分の知っている範囲では、みなさん、距離が近くてやりやすいところから、小さなグループから、されているようです。距離が近いというのは、物理的な近さだけじゃなくて、遠くても、メールでよく話すとか、気が合うとか、そういうのもあるし、同じ幼稚園等、本当に物理的に近いということも確かにやりやすいですね。そういう小さなグループが別のグループとつながって、少し規模の大きいイベントをするなど、いろいろな可能性があると思います。

<親の会「D」>

ではここで、私の知り合いの方が活動している親の会Dについてご紹介します。

☆親の会D…通常の親の会と異なり、定例会を開催せず、あえて定期的な活動はしていません。時々、一斉にお知らせする事があれば一斉メールしたり、話題があればMLに流し合う。ランチで集まることも。年に1回、秋にハイキング&バーベキュー&バンガロー泊のイベントを、別の会と合同で開催。3つ合同で講師を呼んで講演会、市政に親の立場から声を上げるなどの活動も。

☆親の会Dのメンバーの方よりメッセージ
「親の立場から声を上げるという点は、ある

程度お仲間がまとまって交流した経験があって、自然に同じ方向に『願い』らしきものが出てきた段階で、また親御さんの中でリーダーらしき方が出てきて初めて具体化する方が良いかと思います。議員を使う、マスコミを使う、色々あるかと思いますが、当事者間で共通の問題意識が醸成していないと、注目を浴びるのは困難かと思います。私がお薦めするのは、できるだけ当事者間で定期的に集まって（子連れで安心して遊ばせながら座談会をする、平日昼間に子ども抜きで愚痴をこぼす等）互いにお友だちになり、『ひとりじゃないんだ』とまず実感してもらうこと。年に1度程度の負担にならない頻度で家族ぐるみでバーベキュー大会などして、日本の学校では友達が少ないかもしれない子ども同士が、仲良く遊べること。まず、そういう活動を継続するのが肝心かと思います。外に訴えかけることより、まず自分達が互いに支えあう活動をする姿が好感を持たれると思います。」

<親の会「K」>

ここからは、実際に親の会「K」の代表をされている、Sさんをお迎えして進めていきます。

1 発足のいきさつ

（Sさん）「発足のきっかけは、やはりうちの子どもが発達障害だったということで、1年生の時からほとんどほぼ毎日、午前中は私で、会社を早退してきた主人が午後学校に支援に入るという形だったので、やはりそれはうちの子どもだけではなくて、同じ学校の中にもそういう家庭が他にもあって、しんどいよね、とかつらいよね、という話から、だんだん顔見知りになって、じゃあ定期的に親同士でお茶やろうかということになって、ちょうどその時特別支援教育がテレビとかマスコミで、ADHDとかLDとかも報道されるようになったので、その場でだんだん会が広がっていったというか、人が集まってきたということです。実際の発足は平成19年の9月だったんですけど、その時期っていうのはちょうど4年生にうちの子がなっていて、もう力も強くなって、衝動性が高いので、パッとやってパッと動くって言うのが、低学年の

うちは抑えられるんですけど、高学年になると女性の先生ではなかなかできない、ということで、大々的に会として発足させて会員名簿募ったりしたというのはその平成19年の9月です。一応代表を務めさせていただいて、いま大体60人くらいの会員数です。

私たちの会の特徴としては、ハンデを持った子どもたち、の親の愚痴だけではちょっとどうしようもないところがあって、やっぱり普通の、（いわゆる）健常児のお母さんたちにも、奇異な行動を多少なりとも寛容的な視点で、見守りながらも、「良いわよ～そんなこと気にしなくて」というのをやめてもらって、「これはいけないよ」ということを、よその子どももきちっと叱ってもらうようにするしかないってことがあったので、その60人の中には、半数まではいかなんですけど、普通の子どものお母さんもいらっしゃいます。そのお母さんたちがおっしゃるには、自分も子育てしてきて、すごくヒントとか、別に障害者じゃなくても、これはヒントになるなっていうことは、常々おっしゃっています。例えば、「もう分かったの?!」って言っても、さっきも講座でおっしゃってましたけど、実際は分かってなかったから、具体的に示して、「ああそうだったんだ」って子どもから言われて、ああ、分かってなかったんだなっていうこととか、そういうことがあります。あと、先ほど、ADHD、多動性がすごいって言ってたんですけど、中には、ぼーっとして…」

（ぜふら）「そうですね、ADHDは注意欠陥/多動性障害ですが、言葉は悪いですが注意欠陥だけで、多動性がないタイプの方もいらっしゃいますよね。」

（Sさん）「そう、だから、授業中にずーっと座ってるんだけど、実は窓をみて、ぼーっとしてるっていう子も、ハンデのある子だったり、きいて見てるんだけど、全然耳に入っていないとか、そういう子もいます。だから、問題行動は外側には見えないんですけど、実は潜在的に持っていて、すごく学習的にも、子どもたちどうしの関わりの中でも、発達の段階で積み残している部分があって、中学に入って不登校という形でボンと出てくるっていうケースは、非常に多いです。日本は、海外に住まわれていた経験のある方は分かると思うんですけど、全部言語が、一つしかないの、「言わなくても分かる

だろう」とか、「当たり前前はことは、できて当然」とか、「こんなこと言わなくても通じてるだろう」という文化の社会なんですね。空気で読む、とか、察しの良い、とか…でもそれって、外国だと言語がみんな違うので、言ったり行動したりしないと、相手が分かってくれないんですよ。それはきっと、こういった子育てでも本当はあって、言葉なんかできてないんだから、行動とか、きちんと説明したりしなければいけないのに、そこをどうやらみんな割愛して、省略して子育てをして、核家族なので、お母さんのまんな、ある日、さっきおっしゃってましたけど、「先生」になっちゃって、「何度も同じことを言わせないで」とか。同じことを言ってるのかも知れないけど、示してないから、全然分かってないというのはあります。」

2 活動内容

(ぜふら)「活動内容はすごくいろいろされてるんですね。」

(Sさん)「そうですね。一応勉強会は、そこに書いてあるように、子どものもつ特性を知って、それに応じた子育て。耳から入ってくることだと全然苦手な子だと、具体的に絵を示して、「今日友だちと、ケンカしたんだよね」とかって。」

(ぜふら)「視覚支援ですね。」

(Sさん)「一方的にきいて、そうだったんじゃないの？って受け流すんじゃないで、じゃあどんな感じだったのか、友だちと自分の絵を描いて説明してみて、っていうと、そこに大体、こういうふうに見たから、こういうふうな誤解したんじゃないの？とか、絵で示すと、あ、そうだったのか、というのが、伝わったりする。ついついお母さんというか女性っていうのは、口で説明して終わって、伝わったなって思う人が多いんですけど、実際はそうではなくて、視覚支援しないと伝わらなかったり。あと茶話会って言って、お茶会なんですけど、それは愚痴を言ったり、どうしようかなっていう、情報交換みたいなことをしています。あと、子どもの勉強会、子どもどうして学びあうっていう勉強会をさせていただいてるんですけど、普段学校でめっちゃくちや落ち着きがなくて叱られてる子とか、あとボーっとしてる子でも、おこられないように、一応自分なりの目標を立てさせて、

終わったら、すごくほめる。途中で挫折しちゃっても、例えば5ページやるって決めたのに3ページしかできなかったなってなっても、「あと残り2ページやんなさいよ、なんでできなかったの?!」ってついつい言いがちなんですけど、「3ページまでよくがんばったじゃない、じゃあ次の目標を立てるときは、3ページってしたら？」とか、そういうふうに肯定的にとらえてアドバイスします。ほめるってことも大切なんですけど、認めるということですね。いま、定年退職された学校の先生とか、学生ボランティアさんとか、塾の経験を持ってる地域のお父さんとか、お父さんとか男のボランティアさんに入ってもらって、学校でも親でも親戚でもない人に、地域の人たちにほめてもらっているっていうことをしているの、すごく子どもたちは、のびのび勉強しています。分からないことも、「分からない」って自然に言えるし、恥ずかしいことじゃないし、子どもなんだから分からなくて当たり前なんじゃないっていう視点で、みんなやってるので、子どもたちはどんどん増えて、参加者は増えています。

(ぜふら)「子どもたちは大体何人ぐらいですか」

(Sさん)「多いときで20人くらい集まって、一見するとうるさいんですけど、でも、それぞれちゃんと勉強してるし、うるさいって感じる子には、壁際に机をつくって、壁の白いのしか見えないところで黙々と勉強しています。あとは年に数回の講演会とか、開いたりしてます。講演会の資料です…こういうのとか。PTAとか公民館さんとか社会福祉協議会さんなんかといっしょに、共同でやったりしてます。」

3 会をしていくなかで難しかったこと

・どう解決したか

(ぜふら)「会をしていくなかで、難しかったこととか、それをどう解決していったかとか、ありますか？今まで。」

(Sさん)「難しかったことは、やっぱり、組織化すると、行政が敏感に反応してくるんですよ。なんかこう、批判的に行動されるんじゃないとか、何やってるんだろう、ということになってくるので、その誤解をされないようにするというのが、非常に難しかったですよね。」

(ぜふら)「そういう誤解ってどう対応を取られましたか」

(Sさん)「それはやっぱり会で集まったときに、先生とか、学校批判をしない。批判からは何も生まれないので、批判するのであれば、例えば、うちの子は先生にこういうふうについて言われて困る、本当につらい、って言ったら、まずそれを受身じゃなくて、じゃあどんなところで困ってるのかなって、学校に、自分で、見に行く。授業を見に行くとか、そうすると、先生の困り感とかも分かってくるし、じゃあ何ができるかなって、自分でも考えられるし、そのことを家庭に持ち帰って、ご主人なりお姑さんなりに話をして、やっぱり、一方的なことじゃなかったんだということを、理解できる。あとは、こういう会とかも、まず自分の担任の先生なんかに、「こういうのがあるんですけど、先生もし、お時間あったらいかがですか」という感じにしていくと、あ、別に批判してたりするんじゃないんだなっていうことが、だんだん分かってくるし、伝わってくるということです。

あと、いますごく悩んでいることは、インターネットとか、パスモとか、スーパーもそうですけど、どんどん人と関わる経験が、赤ちゃんの時からみんな少なくなってきたので、わたし、自分ひとりに相手をしてほしい、という人が、お母さんでも多くなってきている。だから、個別に相談に来る人はいるんだけど、なかなか勉強会とかお茶会までには至らない。つながっていかないという人もなかにはいます。高橋さんとは話したいんだけど、他のお母さんたちとは気持ちをシェアできないし、共感してもらわないって思ってるっていう感じ。でも、お母さんの要求としては子どもたちとうまくいってほしいし、子どもどうし仲良く遊んでほしいっていうのがあるんですけど、でもその矛盾に全然気がついてない。お母さん自身は個別対応を望んでいるのに、子どもはみんなとうまくいくってこと、ありえないので、それはさっき、視覚支援じゃないですけど、お母さんもそういう人じゃないから、やっぱりお子さんも、個人、先生と自分とか、誰か1人との自分とかを求める傾向にあるので、そこをどうやって、そのお母さんと子どもを支援していくかな、っていうのがちょっと今すごく難しい。若ければ

若いほどそういうお母さんが増えているので、そこがいま活動で課題です。」

4 会をしていて良かったこと、うれしかったことなど

(ぜふら)「逆に、よかったこととか、嬉しかったこととか、ありますか。」

(Sさん)「よかったことはやっぱり、いろんな人と情報交換したりお茶会をしていくことのおかげで、自分の子どもの障害受容とかを、たいしたことじゃなかったんだっていう…すごくこう、障害をもってますよって診断されて落ち込んだけど、実はそんな大した障害じゃなくて、十分自立できるハンデだったんだとか、あと、「1人じゃなかったんだ」とか、先生に視覚の支援方法を、うちではこういうふうに行ったんで、学校でもちょっと試してみてくださいってことが、学校で成功したとか、そういう嬉しい話がきけたときのことは、よかったことです。」

5 インシャーッラー、これからは、日本のムスリムの親の会のようなものが各地で、全国レベルでできていくとしたら？アドバイスをお願いします。

(ぜふら)「これからは日本のムスリムの、親の会って言うたらあれですけど、親どうしのつながりみたいなことができていくとしたら、何かアドバイスありますか。」

(Sさん)「やっぱり、自分たちのことをく理解してもらおうとか、く認めてもらおうとかいうのが、前面に出してしまうと、相手は閉じちゃうかな…やっぱり少数だってことは理解しないと、大多数の人の方がムスリムじゃない人が多いし、ある程度親の会をつくって中心になったり、活動を楽しんでいる人は、やっぱり、ムスリムと、ノンムスリムの社会の間の、通訳みたいな役割を担っていくと、会と、社会とがうまくいくのかなと思います。例えば発達障害のあるお子さんのお母さんにありがちなんですけど、他の子に対して、うちの子に仲良くしてあげてねとか、入れてあげてねとか、言うのはかんたんなんですけど、子どもたちからすると、とても奇異な行動をする子だから、それって、子どもたちからすると、自分たちが我慢しなくちゃいけないのかなって、誤解する危険性があ

る。そうじゃなくって、悪いことをしたときは、〇〇のことにした〇〇ちゃんはイヤだとか、こういうことはしないでね、とか、ここはすごく楽しかったよとかいうことを、明確に伝えてくれると、仲良くできると思うんだよね、というふうにお願いすると、子どもたちはすごく柔軟性があるし、素直なので、わりと受け入れてくれて、いやなことがあったりすると、〇〇君のお母さん、こういうことがあっていやなんだけどっていうことを、ちゃんと素直にいつてきてくれるんですね。そこで、ごめんね！って言って、対応策をその子にも教えたりすると、子どもはストンと入っていくから、それも、ムスリムと、ムスリムじゃない社会の通訳、橋渡しになっていくのではないかなと思います。あと、ムスリムの給食の対応を求めていくと、必ずアレルギーを持っている子どものお母さんとお母さんとも親しくすると、結構、話がスムーズにいくかも知れません。なんかそこで宗教ですっていうと、ある枠に行政側とか学校側が考えちゃうので、人によっては大したことないじゃないかとか、死ぬわけじゃないんでしょってなっちゃう。そうではないんだっていうところから、なるべくそのアレルギー児のお母さんとか、情報交換して、うちも食べれないものいっぱいあるんだよね～というところから入ると、わりと共有しやすいし…学校側が出してくれる献立表にさらに詳しいものが出てきたりするのですごくいいですね。

(参加者)「栄養士さんと話ができちゃう…」

(Sさん)「ええ、できますよ。学校の試食会とかにも、食べられなくても参加しちゃうたりするとか。そうすると、ああ、本当に、お母さんも食べられないんだってというのが、言わなくても伝わるし、そうすると、サラダの中にハムを入れる前に外しとこうかなとか、ゼラチン質のゼリーの時は、寒天質のヨーグルトにかえようかな、とか、そういうのがわりと出てきてくれるので、積極的に関わってくと、他のアレルギー児のお母さんとかもいるし、それはそれでいいと思います。わりと、「お母さんも食べないんですか？」とか、「お父さんとお子さんだけじゃないんですか？」とか言われるんですけど(笑)

6 質問タイム (抜粋)

(参加者)「親の会とかっていうのを、作るのは、一人じゃできないじゃないですか、まず人を集めていく方法はどやってされたんでしょうか。」

(Sさん)「学校に支援にいくと、必ずいるんですよ、どの学年にも、同じようなお子さんのお母さんが。とすると、あなたもそうなの？っていう雰囲気、だんだんそこに下地ができて、定期的集まるようになって、あとは公民館の事務所の人に親の会作りたいんですけどって感じで、だんだん広がっていきました。」

(ぜいら)「会とか作って、名前をつけて始めても、途中で消えちゃうパターンって結構多いと思うんですけど、それをどやって、60人まで、もう3、4年維持というか、拡大されてきたのかなと思うんです。大変だと思うんですけど、メンバーの連絡だけでも…」

(Sさん)「それはやっぱり、ワークシェアっていうか、やっぱり会計が得意な人がいたり、チラシをするのがうまい人がいたり、自然に、できないことはできないと、抱えこまないということが原則ですね。何でも、いいですよ、やります、とかって言っちゃうと、ぼしゃってくるので、これはできないから、だれかできますかって言うとか、ボランティア・フェスティバルっていうのがあって、そのの広告作りなんか、みんなでやってもらう。挿絵のうまい人は挿絵を描いたり、字のきれいな人はポスター書いてもらったり…絶えず自分の状況を言って、募っていくのが原則ですね。助成金の申請なんかにも、そういうのに積極的にやる気満々の人に託して、あとはサポートするようにすれば。あとPTAの活動で、本部をやってる人なんか、周りにいるんですけど、その人から行政はこういうふうに感じてみたいだよ～とか、そういうのを常にみんな情報交換して、じゃあこうしていこうとかやってます。」

(参加者)「やはり情報交換とかコミュニケーションがすごく大切…」

(Sさん)「そうですね。やっぱりお母さんたちがそうやって動いていると、お父さんたちも、なんかやんなきゃいけないのかなって空気が伝わっていくので、そうすると地域のボランティアさんとか、学生なんかも寄ってくると。」

(ぜふら)「私も入らせてもらってる親の会Dも、代表がお父さんで、お父さんだけの会もあるんですよ、オヤジの会って。発達障害の子どもを育てるお父さんの会ってなかなかないから、その機会に愚痴を言いあったり、地域の活動とかに参加したりとかされてますね。もともとはそういう人じゃなかったのに、変わったって言うておられました。おもしろくなっちゃった〜っておっしゃってました。」

(Sさん)「あと、社交的じゃないから社交的にならないといけないっていうのも、ちょっとよくない。自分に得意不得意があるから、わたし社交的じゃないけど、人に寄り添うのは得意だなあとか、だったら、社交的な人のところに行って…(笑)というのも楽しいので。そういう、無理に自分を変えたり、やらなきゃいけないっていうのは思わないほうがいい。」

(参加者)「そういうふうにしちゃうと途中でなんか息切れしちゃいますよね」

(ぜふら)「そうそう、息切れが一番こわいんです。」

(Sさん)「そうなんです。がんばりすぎない。十分、生きてるだけでがんばってるので、がんばりすぎない。」

(参加者)「情報交換ってどういう手段でとられていますか。」

(Sさん)「勉強会とか茶話会で、うちの市ではこういうことやってるとか、うちの学校では支援員さんが何人とかって話をきいて、そこで、うちでは何でやってくれないんだ?ってならず、どうやったらやってもらえるように、動いたらいいかなとか、先生に積極的に連絡帳に書いて相談したり、補助の先生にそのお話をするとかいうふうにしていきます。さっきもできましたけど、給食のこととか、積極的に試食会とか給食を考える会とかに出て、発信していく。

そうすると、他のあまり関心がなかったお母さんとかも考えてくれるようになる。例えば、今日昼カレーライスってなったのに、全然献立表をみなかったから、夜カレーライスを出してしまったとか。そういうのも、「高橋さんが参加してくれたから、今日は昼ごはんがごはんだから、朝はパンにしようかなとか思った」とかいう話はよくききます。献立をみるようになったって。豚肉って多いんだねって。逆に、私じゃない人が、豚肉がなんでこんなに多いんですかって質問をしたりとか、それはよかったですね。」

(ぜふら)「あと、お子さんをお持ちでない方も会員でいらっしゃるんですよ」

(Sさん)「いますね。」

(ぜふら)「どういう関わりというか…」

(サキーナさん)「それはやっぱり、将来的に子どもをもったり、あと実際に学校で関わっていったり…そういう視点で入ってもらえてます。」

(参加者)「障害のないお子さんの親の方も参加されているということで、そういう方は、最初どういういきさつで参加されるようになったのかということ・・・」

(Sさん)「やっぱり、地域の子ども会とかに参加していると、どうしてもちょっと、みんながひく子どもさんって必ずいる、急にこう、ほしいものが手に入らないと泣き出すとか…みんなでお互いが困ってる。そういう子どもさんをみて、どうにか子ども会でうまく、円滑にしていける方法はないかなと思って参加したり、クラスで気になる子がいて、自分の子どもはいつもあの子とどうやったらみんなうまくいくのかなって悩んでる、子どものお母さんだったりする、そういう人が参加しています。」

2、座談会 「親の会の可能性・親同士のつながりについて」 皆さんにききました！！「親どうしのつながりについて意見ををお願いします！」

- ♪絶対必要！コミュニケーションをとりたい、孤立はつらい。
- ♪私自身が、仲のよい友だちづくり
- ♪地域に近くにいればよいと思う
- ♪自分の考え方の偏りや人との違いを認知する機会が増えるので大切。行動や、思考範囲が広がる。
- ♪ストレス発散だけでもいいと思います
- ♪ムスリム同志だけでなく、ノンムスリムの方とのつながりも、必要だと思います
- ♪子どもが大きくなるにつれて友だちが必要になってくるので、親どうしのつながりもとても大切だと思います。
- ♪特に就学についての相談のできるところがほしい。情報交換の場がほしい。MLなどあるといいかなと思う。
- ♪親でない人、ムスリムでない親、などもいる方が、より良いのでは？

○講座「こんな親の会があります」・座談会「親の会の可能性」の感想○

- すぐ質問ができたり、きけたりとてもすっきりします。もっともっと集まって、たくさんお話をきいたり、はきだしたりすることができたらいいと思います。
- 相手（ノンムスリム）の方がいやな思いをしない、否定的じゃない言葉を使う良い例を教えてください。ただでよかったです。親の会についてもそのうち…近いうちに実現できそうな気がします。
- 子どもが今後どのように友だちと対応していけばいいのかを実例をきけて本当によかったです。
- いろんな会があり、皆それぞれがんばっているんだなあと思いました。子育ては、1人ではなく、地域の人たちと、コミュニケーションを取りながらすることが大切なんですね。私は社会的でない方なので、皆と話をするのが苦手ですが、自分のできる範囲で少しずつ、まわりとコミュニケーションをとらなければ…と思いました。こういう機会があって、いろんな話がきけて、良かったです。
- 住んでいるところのモスクに通っている方ともいろいろお話をするととても楽しいのです。ここに来られる方は初めてお会いする方もいて、また違った考え方や話をきけて本当にアルハムドリッラー。親の会は子どもが小さかった頃より大きくなって必要性を感じます。子どもの社会が母や家族だけでなく広がっていくからだと思います。
- Sさんの、「自分たちを理解してもらおう、自分たちの主張を認めてもらおうという姿勢が前面に出ると、相手は構えてしまう」ということばに同感です。ムスリム社会とノンムスリム社会との通訳（かけはし）的な存在になれるといいなと思います。そのためには、ムスリムだけにかたまるのみではなく、地域のノンムスリムの人たちとも積極的に関わっていきたいと思いました。ノンムスリムの人から引いたり、ネガティブに感じるような言動には気をつけなければと思いました。
- ムスリムでない親御さん、教員方などとの付き合い方、ハラームのものについての説明など、大

大変参考になりました。今後も他の方の具体的なお話などを聞く機会があれば、また参加したいと思います。

- 学校のなかでいろいろ（ムスリムとして）問題があったとき、どう対処したか、などの話をきけたり、相談したりできる場としての「ムスリムの親の会」の存在があるといいかなと思います。遠くにいて集まりに参加できない人もいると思うので、「親の会」のMLがあるとその中でいろいろ情報交換できると思います。
- 先輩ママのお話が大変参考になりました。本当に、子育てには正答はありませんが、選択ができるのは良いことです。特に私のようにムスリマの友人が全くおらず、ムスリマでない人や主人にも話せないことがあったりすると、1人で悩むしかないという人には、親の集まりって本当に大切だし、ありがたいと思います。
- 親同士のつながりをもつことの大事さを改めて感じました。日ごろ身近にムスリマとのつきあいがあまりないので、なるべく近くにいる方は声をかけて集まるようにしていきたいと思います。ムスリムとも、ノンムスリムともつながりをもてれば、かけ橋になればそれが一番いいことなのかなと思います。何よりもたくさんの日本人ムスリマにお会いできてうれしかったです。みなさんしっかりされてるなー。でも悩みは共通しているし、みなさんの意見がきけてよかったなと思います。
- 親である私自身が交流することが苦手で、何か自分に役割がないと居場所をつくることができない。Sさんの話はとても参考になりました。社交的でない自分をムリしないのがいいのもわかるが今まで孤立してきているので何でも自分でやらないとというのが現状でした。やっぱり友だちがいるといいのだなと、でない自分の不得意をカバーできないなあ。友だちと途絶えないので交流し続けることをやはり望みますが・・・

Sさん: 確実にムスリム人口が増えているんだなあ実感しました。少数派の生活はなかなかむずかしい面も多々ありますが、受身ではなく発信する気持ちでいると、結構前向きになり楽しいものです。このような集まりの機会を増やし、自己肯定感を再発見し（一人じゃないんだと思い）、自分の生活や日常に戻るのには大切だと思います。給食のことが皆さん不安なようですね。学校生活はたくさん課題があるので一つ一つ乗り越えられるように、お手伝いができるかもしれないので、またお声かけください。

○講座 子育てトピックの感想

- 幼稚園の園長先生も「行動が子どもの言葉」とおっしゃっていましたが、こちらでも同じことが起きてますます納得しました。とにかく、集まる機会、親も勉強できるチャンスをつくってくださってうれしく思っています。
- 保護者と教師…家族が改めて大切だな、と思いました。分かっているけど、つい口でガミガミ言ってしまう…口やかましく言っても伝わらないですね。ぜひ今後も、子育てや、ムスリムでない人とのつきあい方、日本で生活するムスリム…など講座を開いてください。
- 前回にひきつづき、自分の日常の子どものかわり方を見透かされているがごとく、先生が言われているやらない方がいいことをしています。前回学んだことを少しずつ実践（自分なりに）して、言われたように、子ども、自分ともに改善されたことがいくつかありました。

- 口で何度も説明しても分からない時（行動がよくなるらない時）は、理解できていないということ、「行動が子どもの言葉」ということに納得でした。子どもそれぞれ、性格も違うし、まさに子育てはマニュアル通りにはいかないと感じています。
- 子どもの気持ちを認める、きくという姿勢を忘れないようにしたいと思います。タイマーを使うこともおもしろいと思いました。

○託児の感想○

★たくさん子どもたちのご面倒をみていただきありがとうございました。子どもも「楽しかった！」と言ってます。ジャザークムラーフハイラン これからもよろしく願いいたします。

★見ていただいてありがとうございます。男の子は活発なので大変だと思いますが、ありがとうございました。